

防災新聞

1年東組
中道 きま里
発行日
8月22日

身近な災害 ~対策をして 命を守ろう~

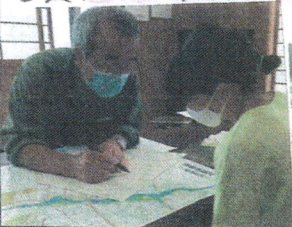
上戸で起きた災害

今年、日本の各地で地震や大雨による水害が起きた。西筑輪も山に近く、土砂崩れが起きる可能性がある。そこで自分の地域はどんな災害が起これるか調べてみるために鈴木孝敏上戸区長に話を聞いた。

上戸区では昨年の八月に小さな水害が起きた。山から出た水が、本来なら山のふもとの方で流れるようになるが、山の手入れのために作った道を流れて行ってしまい、民家に被害が出た。そうだったのが、土のうを使って水を水路の方に誘導した、ということがあった。この山がもととなくさん水を出す、道を作ったために起きたことで、最近一番大変だった。と。また、この山は、伐採した木で、いろいろなものがそのま

まになんていて、とて思っている。しかも手入れされてなくて、すぐ成長した木もあって、山の近くに住んでいる人の家に倒れてくる可能性もある。切られてそのままの木の枝や土が、北の沢といいう上戸の川に土石流として流れ、橋につまんで、水があふれたという。これもあった。これは橋をつくるための土を取り忘れていて起こった。

鈴木区長に話を聞いた。その後、実際に歩いてみた。



伊那市の防災マップを見てみると、上戸区は土石流の土砂災害警戒区域に入っている。しかし、実際には土石流より、今までのこのところを考えると、危険なのは、北の沢の両側十

となり組防災システム

防災倉庫の中には?

特別に防災倉庫の中を見せてもらった。中には、発電機、炊飯器、コンクリートが切れる機、ヤカーなど、たくさん入っていた。



倉庫の中

災害が起きたとき、避難所に避難することがあるかもしれない。学校や公民館、様々なところが避難場所になっているが、上戸にある上戸集落センターもその一つだ。しかし、集落センターは土砂災害警戒区域に入っている。しかも北の沢のすぐ近くに。伊那市防災マップの裏面を見てみると、集落センターはおいて、誰が様子を見てくれるのかよくわかっていない。誰か様子を見てくれるのかよくわかっていない。

上戸区北部七組は、昨年の八月に大量の水が山から出てきたところだ。土砂災害警戒区域などには入っていないが、山に近いので、災害が起きる可能性はある。七組に住む人たちは、災害から身を守るために、対策をしよう。

七組は災害時だけでなく、日ごろから対策をしたり、近所の人と声をかけ合って、みんなが対策をしている。

区長の話をきいて、知らなかったことがたくさんあった。様々な資料を使って話してくれた区長に感謝する。

区では、自主防災会や災害時のタイムラインを作ったり、市に山の整備の要求をするなどの対策を行っている。災害が起きたときには、家にいるとは限らない。様々なパターンを考えて対策しておくことが大切だと区長は言っていた。

また、大雨が降ったとき、早く避難できるように雨量計測バケツを使って、二百ミリをこえたら避難準備、二百五十ミリをこえたらみんな避難という約束がある。

編集後記